みんなの合意は得られるだろうか？

「ロンドン感動したな～」と僕。「政治はどうなるのかしら」と妻。「あの離婚騒動もすごかったな」と父。「景気も見えないわねぇ」と姉。「明日はどっちの優勝かしら？」と母。「紅！」「白！」と子どもたち。十二月三〇日。僕ら四人家族は実家に帰省し、両親と姉とこたつでくつろいでいた。賢明な新聞読者の方、そして熱烈な「2.5世帯ものがたり」ファンの方は、覚えていただいてるかもしれませんが、あらためて自己紹介を。僕は吉田孝則、三十五歳会社員。家族は三つ下の妻恵と、六歳の翔太と四歳の春香。僕らは実家の土地で、父母と三十八歳独身の由紀子姉さんと同居する、「2.5世帯」暮らしを検討していた。メリットはいろいろある。天災にそなえて古い家を建て直せる。親のこれからを姉だけに頼らず僕らもそばで支えていける。共働きのうちの育児をサポートしてもらえる。世帯ごとの居住スペースはしっかり独立している。親と姉に、そして何よりがんばってくれている妻に、新築の家をプレゼントしたい。それが僕の想いだ。お盆の話し合いを経て、この年末は結論をだすときだ。妻の恵が僕の手をぎゅっと握りしめ、応援してくれる。ありがたい。僕はさりげなく本題を切り出した。「あと今年のキーワードといえば2.5世帯だよね？新聞広告も話題になってたし。マスコミでも注目の住まいだって。僕ら七人も『ヘーベルハウスの2.5世帯住宅』で暮らさないか？」しばしの沈黙。え？まさか、反対!? そのとき、由紀子姉さんが何かを差し出した。「はい、カタログ」え？「あんたみたいに2.5、2.5言ってるだけじゃ、進まないでしょ。だから資料請求しといたの。↘にアクセスして」「↘にアクセスして!?」・・・。胸が熱くなる。父と母が笑顔でうなずく。姉が子どもたちに聞く。「来年から由紀子おネエさんとジィジとバァバといつでも遊べるのよ。うれしい？」「うれし～」翔太と春香が目を輝かせる。僕は妻の手を強く握りかえす。午後二時五分。僕らの2.5世帯が決まった。

（明日掲載予定の広告紙面に）つづく

※前シリーズはヘーベルハウスＨＰへ。

2.5世帯住宅で、暮らしませんか？

考えよう。答はある。

ヘーベルハウス

http://www.asahi-kasei.co.jp/hebel/

HEBEL HAUS 40th ANNIVERSARY